

## 特別支援教育専門研修を受講して

小学部教諭 伊藤 優子

平成29年9月4日（月）～11月8日（水）のおよそ2カ月間にわたり、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所で、「特別支援教育専門研修」を受講しました。研修内容は、講義や演習、見学など、様々なプログラムが組み立てられており、基本的な障害種別の教育概論から最新の特別支援教育に関する情報まで、広く学ぶことができました。

今回は研究部報の誌面をお借りして、私が、授業や支援に役立ちそうだな・・・と感じた情報を、二つ、お伝えします。

### 1 「愛着障害」って、あるんです。

「発達障害」は、「発達にアンバランスがあり、自分の努力だけでは改善しにくい生物学的な特性をもつ」のですが、学校には、そうではないような子どもたちもいます。

例えば、「なぜ、そんな行動するの?」と、行動の背景からタイプを考えると・・・

- ①「聞こえていない」…自閉症スペクトラム
- ②「うっかり」…ADHD（後で言われると、思い出すタイプです）
- ③「わからない」…知的障害、自閉症スペクトラム、パステルゾーン（発達に軽いアンバランスがあるが、診断名がつくほどではないタイプだそうです）
- ④「わざと」…愛着障害（注目がほしいタイプ）（女子では、他者に対して過剰にオープンなタイプもいます）、反抗挑戦性障害

行動だけ見ていると、似ているように感じることもありますが、ADHD と愛着障害はタイプが違うのです。でも、混同されているケースがあります。愛着障害は後天的なところが大きいのです。だから、脳に作用する ADHD の症状を軽減させる薬が効かないケースも出てくるのだそうです。

愛着行動とは、例えば、安全基地である母親から離れても「安心してチャレンジに向かえること」として表れます。乳幼児は、苦悩や恐怖を低減させるために、安心感や安全感をもつことが大事で、そこから知的探究心（＝学びの力）を活性化させます。しかしその機会がないまま育ち、関係性が築けないタイプがいるのです。その子たちは、もともと、生理的欲求と安全の欲求が満たされていないのです。発達の土台が危ういのです。そして、虐待の対象となる場合

もあるそうです。

この場合、教員に期待される役割は、「気持ちを察してくれる、一貫した存在」です。

家庭に、安全基地がない場合もあるのです。これからの特別支援教育は、「本人」支援だけではなく、これまで以上に「家族支援」が大切となるという話でした。

参考：NPO 法人 えじそんくらぶ 代表 高山 恵子 氏  
宮城教育大学 准教授 植木田 潤 氏

## 2 「これは、いい！」 iPad アプリ

「ICT の活用」という研修で、おすすめのアプリを使ってみました。その中で、私がいいなあ・・・と思った iPad 対応アプリを紹介します。

<p>①<b>レジスタネイ</b>～（知的障害児対応）</p> <p>写真と金額を入れて、買い物の学習に使えます。計算が苦手でも、分かりやすいです。例えば、作業学習製品販売会で使えそうです。</p>	
<p>②<b>ビデオで視覚支援「まねるんです」</b>～（知的障害児対応）</p> <p>体の動きを学習するアプリです。例えば、ダンスを反転して提示できます。運動会のダンス練習とかに使えそうです。</p>	
<p>③<b>まるぼつクイズメーカー</b>～（発達障害児対応）</p> <p>クイズが作れます。楽しめます。漢字学習など、出題できそうです。</p>	
<p>④<b>筆談パット</b>～（難聴児対応）</p> <p>文字情報が有効な人に、ぴったりです。</p>	

※各アプリの画像は iTunes のサイトから。